

# 東日本大震災・信越地震 支援ニュース⑩

長野医療生活協同組合 企画・教育部ニュースNo.39

発行：2011年8月5日 新津みさ子

～絆～  
心ひとつに!!

## 第13次：復興支援！ 7月29日(金)～30日(土) 宮城県 山元町へ 組合員・職員 39名参加



団長/市村常務、副団長/西沢常務

7月29日13時に長野中央病院を出発し移動時間6時間、小原温泉に前泊し、30日支援活動を行ないました。

今回の支援は、長野・京都・大阪などから、150名のボランティアが参加し、小雨の降る中、9時から草刈、草取り、側溝の泥だしなど行いました。また、ボランティア参加者は15歳から70歳台の方々の参加があり、みんなの医療に折り込んだ、募集のピラをみて、参加された方が半数ほどでした。中には、組合員ではないからと、組合員に加入して参加された方もありました。

今回支援に入った山元町は人口16,633名 5561世帯の農村で、一面田んぼが広がり、りんご、いちごなどの栽培で生計を立てていた町だったそうです。今回の津波で死者611人、行方不明者12人という犠牲がでました。

「震災の様子をテレビ等で見て、自分も何かしなければと思っていたときにこのピラを見て、参加しました。」「一人ではなかなかボランティアに行けなかったけれど、医療生協の企画があってよかった」など、皆さん同じ思いで参加されていました。



↑作業前と作業後↓



～参加者の感想文より～ ひとつの目的を全員で達成しようとした時の団結力の力強さを感じました。(職員)自分たちは本当に必要とされているのか、自己満足になっていないかと自問自答しながら作業していました。少しでも力になれたのであれば、うれしく思います。(職員)

被災された皆さんに、僅かでも手助けをと思い参加しました。次回も、都合つけて参加するつもりです。(61才男性)草取り・草刈りならばと、甘くみていました。運動不足を実感する2日間でした。雑草の生命力に負けず、生活を立て直す一助となる大切な支援でした。(65才女性)テレビで報道されるよりも、実際に住民の方が住んでいない、ゴースタウンのような町にショックを受けました。少しでも被災された皆さんが住みやすい場所になればよいのに、と思いながら作業をしました。(37才女性)



中島哲也さん  
地域活動部

7月26日から現地にて、受入れ準備をすすめていただきました。ありがとうございます&お疲れさまでした。

### ★義援金集約

(8/8現在)

5,044,217円

(物資・経費のぞく)

民医連・生協連へ5,016,032円送金済!

#### ★義援金の遣いみち

民医連は被災した民医連事業所を通じて、医薬品、救援物資などの形で被災者の利益に結びつく形態で有効活用します。(3.23全日本民医連より)また、義援金の一部は、被災した栄村に寄付しています。